

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第45週 (11/7-11/13) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		45週	44週	43週	42週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	11/7-11/13	10/31-11/6	10/24-10/30	10/17-10/23	10/31-11/6	
			45週	44週	43週	42週	44週	
小 児 科	RSウイルス感染症		4 0.22	8 0.44	9 0.50	12 0.67	81 0.60	
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.11	0 0.00	0 0.00	19 0.14	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	43 2.39	33 1.83	30 1.67	21 1.17	362 2.68	
	感染性胃腸炎	○	185 10.28	124 6.89	116 6.44	89 4.94	908 6.73	
	水痘		3 0.17	7 0.39	4 0.22	5 0.28	44 0.33	
	手足口病		17 0.94	26 1.44	41 2.28	32 1.78	196 1.45	
	伝染性紅斑		2 0.11	0 0.00	2 0.11	2 0.11	23 0.17	
	突発性発しん		9 0.50	10 0.56	9 0.50	15 0.83	52 0.39	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01	
	ヘルパンギーナ		7 0.39	3 0.17	4 0.22	7 0.39	26 0.19	
	流行性耳下腺炎		8 0.44	3 0.17	6 0.33	8 0.44	71 0.53	
イン フル	インフルエンザ*(高病原性鳥イン フルエンザを除く)		16 0.57	6 0.22	6 0.21	9 0.32	117 0.55	
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		2 0.40	4 0.80	2 0.40	3 0.60	27 0.79	
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22	
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	2 2.00	3 3.00	2 2.00	15 1.67	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体の検出等	結核	女性	80歳代	リンパ節生検
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	急性脳炎	男性	10歳代	中枢神経症状
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び中枢神経症状
結核	女性	10歳未満	IGRA検査	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	女性	50歳代	病原体の検出
結核	女性	10歳代	IGRA検査				
結核	女性	30歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第45週は、結核7件(212)、急性脳炎2件(28)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(7)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第45週のコメント

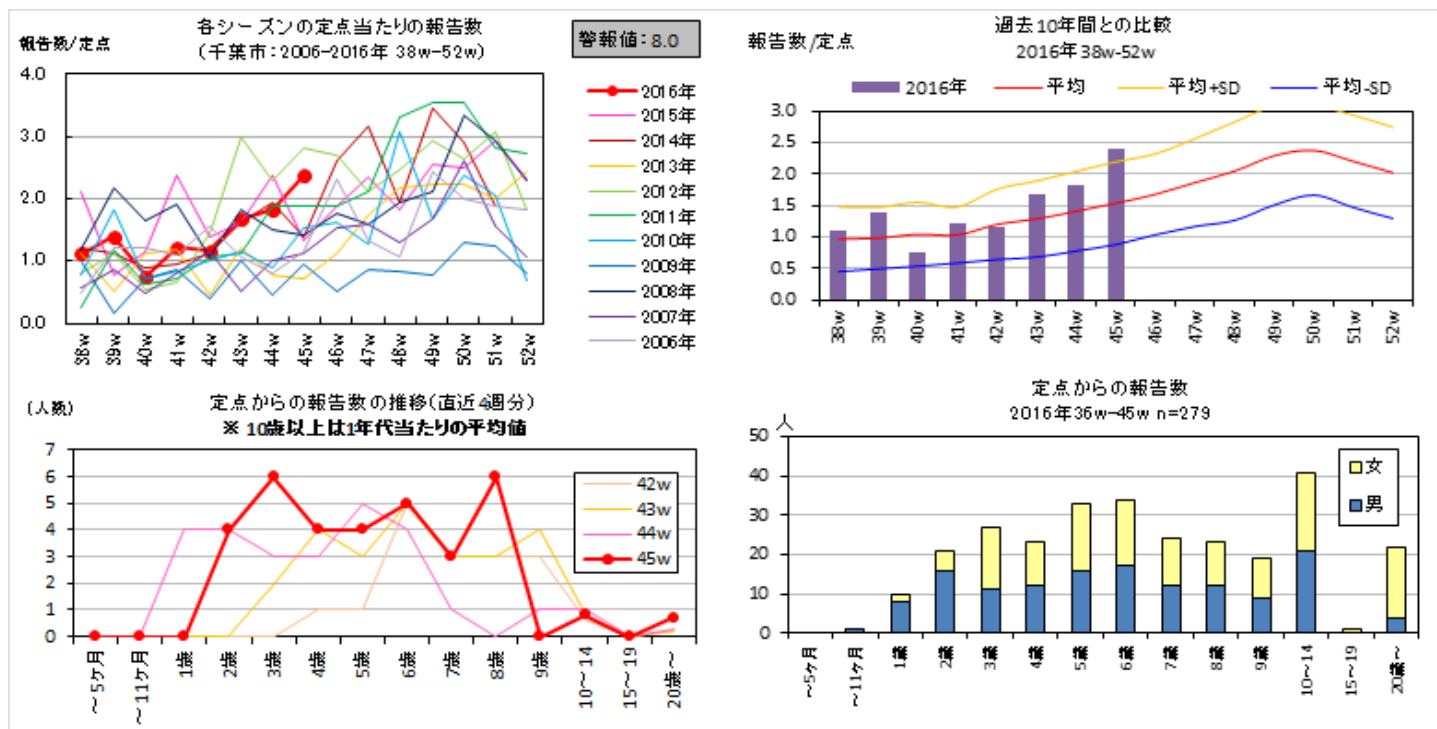
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.39となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<感染性胃腸炎> 前週より増加し10.28となった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第44週は、過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、山形県、鳥取県、静岡県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の第45週は前週より増加し2.39となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(5.5/定点)で最多となっており、同区において一年代当たりでは2歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第45週までの累積報告数(n=279)によると、性別では男性が49.8%(139名)、女性が50.2%(140名)で、年齢階級別では10歳代前半が最も多く、一年代当たりでは6歳(12.2%:34名)、5歳(11.8%:33名)、3歳(9.7%:27名)の順に多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第43週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、広島県、三重県、島根県の順に多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第45週は、前週より増加し10.28となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。例年の発生動向によると、今後は更に増加していく傾向にあります。区別の発生状況は、稲毛区(13.7/定点)で最多となっており、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第45週までの累積報告数(n=954)によると、性別では男性が56.2%(536名)、女性が43.8%(418名)で、年齢階級別では1歳(16.0%:153名)、4歳(13.0%:124名)、2歳及び5歳(共に10.3%:98名)の順に多くなっています。

